私が考える「需要創造、顧客創造の突破口！」
7名のメッセンジャーからの提言⑥

きものと共に生きるすばらしき人生

～生活者のきもの離れに関する誤解～

和創美　林 良江 氏（月刊『花saku』「幸せきものコーディネイト」連載中）
ホームページ　http://www.wasoubi.jp/

『和の生活マガジン花saku』より、チャンスをいただき、連載をさせていただいております「和創美」代表 林良江と申します。私は今年の4月で55歳になります。30代のときは女性起業家でした。官庁、企業、学校などを対象にした給食、イベント企画、ケイタリングの提供、カフェ・レストランの経営などを行う会社で、年商7億円企業でした。なんとか上場を目指したいとがんばっていた17年目に、急性リンパ性白血病になりました。そうして急遽、社員とともにM&Aを行い会社を手放しました。そのころに大切にしたものは、1に社員、2に会社、3に仕入れ先、4に得意先、5に家族の順番でした。

生死をさまよって、生還したものの、すべてを清算した状態です。家族には「ゆっくりしなさい」といわれましたが、一線を区切ってやってきた私に、何もやることがない状態は酷でした。でも「何ができるの？」と考えても何もありません。そんなときにふと箪笥（たんす）を開けたら、母のきものがあったのです。手に取ってみますと、香りがよくて、肌触りがよくて、まるで母に包まれている気がしました。羽織ってみたら、着方を知らないことに気がついたんです。すぐに「装道礼法きもの学院」に入学。今でも着付けの師範クラスに通い、礼法も学んでいます。きものが好きになると、もっといろいろ勉強してみたくなって、気学、四柱推命、タロットなどを勉強し占い師にもなりました。

しかし、きものを着られるようになったのですが、どこに着て行けばいいかわかりませんでした。そこで、ホームページをつくって投げかけてみました。
「私と一緒にきものを着て出かけませんか？」と。それこそ、「ウェブ活」です。ミクシー、ツイッター、アメブロ、フェイスブック……、今でも毎日更新しています。

最初は、数人だったのが何十人も集まって出かけるようになりました。「和髪を自分で結って、きものを着ましょう！」と呼びかけたら、さらに、きもの好きがいっぱい集まってきました。「大江戸八百八町わそうび情報局」というユーチューブもつくってみました。きもの美人が集まって自分たちの仕事のことやイベント、きものの楽しさを公開しています。ホームページにも活動報告をアップしています。素人にもかかわらず、きものの和が広がっています。こんな私でもできました。
「江戸しぐさ」の一戸都さん、「まゆ月」の島田史子さん、カラーコーディネイトをやっている湯浅千花恵さん、ジャズピアニストで墨絵画家の林かおるさん……、いろいろな人が集まって、「シャイニング輝く女性づくりの会」を開催しています。銀座コアビルの7階「クルーズクルーズ ザ ギンザ」で、ランチ＆セミナーを行っています。講師の私たちが毎回きものなので、お客さまも、だんだんきものを着てくるようになりました。異業種交換会で名刺交換させていただく機会には、きものを着ていると とても目立って覚えてもらえます。きものは「広告塔」なんです。だからこそ、呉服店の社長さまや販売員の方にもぜひお召しになっていただきたいです。

私は今、きものの輪をつくり多くの人、世界の人に発信しています。いろいろな人たちと仲間になっています。一人でも多くの人たちにきものを着てもらい幸せになってほしい、人の役に立ちたい、そう願って、これからも活動を続けていくつもりです。